

カトリック

広島教区報

No. 107

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

主の降誕と

新年のお慶びを申しあげます

アレキシオ 白浜 満 司教

二〇一七年の年頭にあたり、広島教区の皆さんの上に、神様の豊かな祝福をお祈り申しあげます。

昨年、九月十九日に司教叙階の恵みを受けて広島教区に着座し、約四か月になります。司教館での生活にも徐々に慣れ、とくに小教



世界平和記念聖堂、24日クリスマス夜半ミサの様子
左から豊田神父、白浜司教、大西助祭、ヴィタリ神父

ロイ助祭 司祭叙階式

日時：3月20日(月・祝)
13:00～

場所：カトリック岡山教会
岡山市北区天神町 6-27
TEL 086-222-4093

司式：アレキシオ白浜満司教

受階者：ペトロ

ホアン・ドゥク・ロイ助祭



ご支援、ご指導を賜りながら、「福音のためならどんなことでも」(一コリ九―二十三)というモットーに恥じないよう、皆さんとともに宣教司牧活動に取り組みたいと思います。

教区創立百周年に向けて

広島教区では、教区創立百周年(二〇二三年)を準備していくために、宣教司牧の四つの優先課題(①召命促進、②青少年育成、③教区共通カテキズムの作成、④津和野殉教者の列聖を掲げて、その取り組みを進めています。今年は、さらに「家庭へのチャレン

白浜司教挨拶・じゃけえのう

教区の動き
世界平和記念聖堂・ロサレス枢機卿来広
地区・海峡からの風・広島教区の施設
青少年・ひと粒

一面
二～三面
四～五面
六～七面
八面

じゃけえのう

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね」という意味。

昨年十月の教会学校での勉強中、「フランシスコ教皇様は、自分の国や町から、着の身着のまま出なくてはならなくなった数え切れないほどの人々に心を痛め、何らかの方法で助けをあげるようにとすすめています。もしあなたの家に、他の家族が『一緒に住まわせて!』と言って来たらどうしますか?』との問いに、居合わせた全ての子どもがすかさず「ムリムリムリ!絶対ムリ!」との返事。

問うた私も「出来ないよねえ」と答え、「慈しみの特別聖年がまもなく閉じようとする中で、教皇様のお奨めに沿ってこれからも私たちがなりに出来ることを考え、実践していきましょう。」と結んで終わってしまった。▼近年各地で想定外の震災・異常気象・事件などが頻発し、明日はわが町でも、わが近辺でも?と心配することが増えた。そのため、安全対策や対応策に心を砕くことが喫緊の課題ともなってきた。私にとつての安心・安全とは何かを考えたとき、そこにたつた一言「居心地の良い場」という言葉が浮かんできた。▼先に述べた教会学校での話

の後も、後味の悪い感覚が残っていたので、さて私はどうしたらよいのかと、落ち着いて考えてみる時間を持ったのである。▼自分にとって「居心地の良い場」は、思っただけでも気持ちのよいものである。▼特殊な生活形態を持っている私にとつて生涯の殆ど、日々が、振り返れば居心地良いものだったと思う。日々のミサや祈りは言うまでもなく、共同体や職場からももらえる喜びもある。さまざまな出会い、参加するミサや赦しの秘跡も、受けた後は時折スリッパしながらその場を後にしたいくらいの思いを持つこともある。▼日々、危機的状態にある人のことを思うと、心臓がバクバクと鼓動し痛みも感じる。▼その人々の中にたまには自身を含む事もあるが、一刻も早い居心地の良い場が与えられることを祈りたい。何も大それたことは出来ないが、これからもやっぱり、教皇様のお奨めに沿って私なりに出来ることを考え、実践していこうと思う。(イエスのカリタス修道女会)

Sr.高平 恵子

教区の動き

平和の使徒推進本部

【二〇一六年度

(第一回) 広島司教区宣

教司牧評議会開催】

去る十二月十日(土)、

二〇一六年度第一回広島司教区宣教司牧評議会(以下、教区宣司評)が、広島カトリック会館多目的ホールで開催され、白浜司教、司祭、修道者、信徒の二十五人が出席した。

教区司祭大会の開催

二〇一七年四月の復活祭

後には、大幅な司祭の人事

異動を検討しています。派

遣された先で、各司祭が共

通認識をもって、また小教

区の皆さんとともに、「教

会へのチャレンジ」という

テーマに合わせたいくつか

の取り組みを開始すること

ができるよう、二〇一七

年二月二十七日(月)〜

二十八日(火)に、教区司

祭大会を開催することに

しています。そして、教区の

皆さんには、次号の教区報

をもってその内容をご報告

申しあげ、ご協力をお願い

したいと思います。

今年も、どうぞよろしく

お願いします。

われた。

議題は、最初に「教区創立百周年に向けた具体的な目標に基づき振り返り」について報告があった。

◆教区の優先課題について

① 召命促進の報告

二〇一四年にスタートした予備神学校は、現在、十一回開催。教区内の各地から参加者が集い、「教区の予備神学校」と言える。

② 青少年育成

青年たちの中にある世代間の差(十代から四十代)のつながりを深めたい。地区を超えた青少年たちの関わり、連携を作っていくことが今後の課題。白浜司教を中心に、育成について取り組んでいきたい。

③ 教区共通力テキスト作成

「初聖体(岡山・鳥取地区)」「堅信(広島地区)」「結婚(山口・島根地区)」が担当し、委員会において概ね三つの案は完成。但し、既に多くのカテキズムがあるなか、教区の独自のものを発行する必要があるのであるのが課題。今後、白浜司教の方針に沿って、

これまでの努力を有効に活用して頂く。

④ 津和野殉教者列聖

二〇一八年の浦上四番崩れ(流配)一五〇周年に何を行うか検討する。長崎訪問の計画。パンフレットの英語版の準備。乙女峠「秋の巡礼(十一月三日)」の計画。

平和の使徒となろう



平和の使徒推進本部

◆各地区・ブロックからの報告

① 広島地区の報告

現状を分析し、この三年間の成果について、「何を持って達成とするのか」と言う問いに対し、次の三年間は、目標(テーマ)を定め、何をするかを考えた。

② 山口・島根地区の報告

「教会へのチャレンジ」としてのテーマの柱を三つ作り、各年に振り分けた。そうすれば漠然と一年を過ごさなくて良い。

例:「祈る教会」「働く教会」「交わる教会」など。

③ 岡山・鳥取地区の報告

各小教区に応じた「家庭へのチャレンジ」を推進し、行事などを通してきっかけになった。「教会へのチャレンジ」の取り組みに関する話し合いはこれから。白浜司教の方針に沿って新しく歩んでいきたい。

④ 伯雲ブロックの報告

異なる教会事情のなか、三つの教会が一緒になって協力することが目的。その中で、「永井隆追悼平和祈念ミサ」を継続してきた。今後、ブロックとして継続的に検討、実行したいことは、独居老人の方のケア、増えつつある外国籍の方のケア。

◆修道女連盟の報告

① 広島地区の報告

各地区との連携について、特に成果は無かった。

② 岡山・鳥取地区の報告

四つの修道会(合計三十



会議の様子、広島カトリック会館1F多目的ホールにて

名)が集まる「修女連としての行事」は、今年度は実施していない。各々個人が、小教区、地区内の司牧に関わっている。高齢化が進んでいるが、教会の必要に応えたい思いで、これからも「祈り」「傾聴」などで関わる事ができると思う。

③山口・島根地区の報告

研修会と代表者会議を行うことを継続してきたが、近年、開催が困難になってきている。開催の期間の見直し、信徒の参加も積極的に呼びかけている。修道会の強みは、日本、世界と繋がっていることで、国際的

な繋がりを、教区内、地区内で活かしていきたい。
◆教区全体の動きを平和の使徒推進本部から報告

広島司教区の「活動の源泉」「三つの柱」を土台として位置づけ、併せて四つの優先課題を掲げた『広島教区宣教司牧活動』を今後も継承していく。三年間を振り返り『私は〇〇します』を、再度、推進したい。広報活動として「GAUDETE (ガウデーテ)」「教区報」「教区公式ホームページ」を積極的にPRしていきたい。

続いて議題は、「新たなチャレンジに向けて」と題して、白浜司教から方針の説明があった。

①召命促進について

助祭、神学生の召命を实らせるため、広島司教館で共同生活を送り、養成を開始。

神学校に長く関わってきた経験を活かし「司祭召命を考える集い(神学生募集)」の活動を始める。対象は高校卒業から三十八歳までの独身男性。

②青少年育成と教区カテキ

ズムの作成について

発展(段階)的な信仰教育ビジョンとして、信仰教育に対する教区カテキズムを作成する。既に作成された三つのカテキズムを活かす。信徒の皆さんには各々の場面でテキストを使用してもらいたい。

堅信後のサポートとして、典礼歴に合わせたカテキズムを検討する。少しずつ準備しているが、今後、協力者を募りたい。

信徒自身で教えることができるよう、分かりやすくサポートしたい。

③小教区のための「信徒司牧者(仮称)」の養成について

小教区のために、責任を持つ司祭と協働して、信徒司牧者が働けるようにする。修道者(男女)、信徒に小教区司牧を委託することが出来る。過去に「教会管理者」として実際に教会法を適用した。

終身助祭の養成については、日本でも、終身助祭に教会の責任を任せる動きが出てきている。但し、信徒司牧者の養成よりもハード

ルが高い。広島司教区で終身助祭の養成可否を改めて検討しても良い。個人的には終身助祭の養成より「信徒司牧者の養成」を検討したい。原則として生活、老後の心配がない方(男女)が対象で、任命を受け、任期制(更新可)で、特に責任を持つて働くため、任期中は一定の報酬を支払う必要がある。今後、司牧者養成のためのチームを立ち上げたい。そのためには、様々な課題に対して明確にするための規約の作成が必要。また、将来「信徒司牧者の会」を結成して、相互の協力、研修会などにより、資質向上を図っていきたい。

④各地区へのゆるやかな「協働チーム」の導入について

協働チームは、小教区の統廃合を目的としているものではない。司祭の高齢化と減少の可能性があるため、少人数の司祭がチームとして協力し対応すること

を効果的に容易にすること。協働チームの司牧のあり方は、「共同司牧」と同じではない。自分の小教区

のことだけを考えるのではなく、近隣の小教区との交流、交わりにおいて互いに活性化していくことを期待する。

⑤教区創立百周年に向けて

記念誌の編さんについて「教区百周年記念誌」編さんを検討したい。そのために準備委員会(チーム)を立ち上げて作業に入ることが出来ればよい。

イベントの企画よりも、十年後の教区の現状に危機感を持ち、「新しいチャレンジ」を百周年に向けて準備していきたい。十年はすぐに来るから。

教区宣司評の終盤は、世界平和記念聖堂保存活用委員会からのお知らせ、その他諸連絡があった。

以上のことが話し合われ、祈りと祝福のうちに三時間の教区宣司評を閉会した。

意見や要望などは、平和の使徒推進本部までお願いいたします。

重要文化財 世界平和記念聖堂
耐震工事、いよいよ始まる

広島教区の司教座聖堂「世界平和記念聖堂」の耐震保存工事が始まった。昨年（二〇一六年）六月の文化庁の補助金の交付決定を受け、七月末から実施設計、工事費積算など工事発注の準備を行ってきた。十月末に、重要文化財の保存工事や鉄筋コンクリート造の耐震工事に実績がある建設会社を対象に指名競争入札を行い、清水建設が約九億円で受注した。十一月十二日には白浜司教の司式で工事安全祈願祭が行われ、待望の工事がスタートした。二〇一九年十二月末までの三カ年度にわたる長期間の大工事となる。今年度は、第一期として鍾塔の

地盤改良、聖歌隊席に上る階段室の耐震補強工事、聖堂内のステン

ドグラスの改修工事を行う予定。すでに地盤改良工事に支障となる鍾塔周りの樹木の伐採、仮囲いの設置などが行われ、鍾塔周辺の歩行者の通行や駐車場の利用、鍾塔一階の小聖堂の使用が出来なくなっている。車で聖堂に来られる際には周辺の民間駐車場をご利用ください。また、一月からは、ステンドグラス補修のための仮足場が聖堂内に設置され、信者席の配置も大幅に変更される。パイプオルガン及び聖歌隊席への階段の利用も出来なくなり、リードオルガンを使用して聖歌を歌う予定である。さらに聖堂玄関が一部封鎖され、聖堂での様々な行事にも制約が出る。信徒の皆様には不便をお掛けしますが、聖堂保存の意義をご理解の上、ご協力ください。すでに鍾塔の基礎の位置を確保するために地面の掘削が始まり、被爆当時のモノと思われる瓦や食器の破片、ガラス片などが多く出

→世界平和記念聖堂小聖堂入口にある3本のヒマラヤ杉を切り倒す様子



現在の小聖堂前の様子

土した。その中には火災で変形したガラス瓶の破片もある。原爆に被災した当時の教会にゆかりの品々である。広島市の平和記念資料館では耐震工事に先立ち原爆被災当時の街並みの発掘調査が行われている。そこまでの調査は願うべくもないが、被爆前後の教会がどのようなであったかを知り、聖堂の存在意義を伝えるためにこれらの出土品を大切にしたい。

昨年十一月から聖堂保存活用委員会の委員長に、斎藤神父（司教総代理）に代わって白浜司教が就任された。先輩たちが苦勞して築かれた記念聖堂を大切に保存・活用して行きたいと話されています。皆様との強い絆のもとに「平和の

灯」を絶やすことのないよう、記念聖堂を次の世代に引き継いで行きたいと考えます。
（世界平和記念聖堂・保存活用委員会）

世界平和記念聖堂募金
郵便振替口座

口座名：カトリック広島司教区

口座番号：01320-3-109791

*通信欄に「聖堂保存献金」と記入してください。

広島に集った移住者の
心を温めた
ロサレス枢機卿来広

「ミサはイエスの祈りです。私たちは、ミサのたびごとに御父にささげるイエスの祈りとイエスの奉獻に参加できるように、特別に招かれていますのです。」と、マニラの名誉枢機卿、ガウデンシオ・ロサレス枢機卿は、二〇一六年十月九日、まさに記念すべき日曜日に、何百人ものフィリピン人の他、多くの外国人移住者たちへ、広島市の熾町の世界平和記念聖堂で彼らとささげるミサの前に、導入のことは

を述べられました。
広島司教区（山口県、岡山県、広島県、島根県、鳥取県）のあらゆるところから駆けつけた約四五〇人のフィリピン人移住者、またその他の国々、たとえば、ベトナムからの移住者（約四十人）、米国やラテンアメリカ（ブラジルやペルーなど）からの移住者などが、広島司教区によるこの先駆的な移住者の行事に参加するために集まりました。広島在住の日本の共同体の代表者たちも出席し、この移住者の行事へ全面的な支援を表しました。

新しく広島司教に任命された、アレキシオ白浜司教は、ロザリオの祈りの前に、集まった人々に温かい歓迎の意を表しました。祇園カトリック教会のマリア・シナクル・グループがロザリオを先唱しました。ロザリオを唱えるあいだ中、ゆるしの秘跡も行われていました。広島教区の地区長ヴィタリ神父、日本カトリック移住移動者委員会（J-CARM）の広島教区担当者である萩神父と、三名のMSP（フィリピン宣教会）のエラディオ・オリバー神父（MSP総長）、リカルド・ブガス神父、ホセ・ノリヤ神父と、PIME（ミラノ外国宣教会）のアルベルト神父が、共同司式を行いました。
ロサレス枢機卿は英語で説教



世界平和記念聖堂でのミサ、
優しいまなざしで説教をされた、ロサレス枢機卿

を行い、出席した日本の共同体のために、ホセ神父が通訳しました。ミサに参加したフィリピン人と外国人は同様に枢機卿のシンプルで奥深い説教に深く感動しました。彼はその主日の福音（ルカ十七・十一―十九・十人のハンセン病者の癒し）の意味とメッセージを、何年も前のフィリピンのミンダナオで、枢機卿が個人的に体験したことに基づいて、生き生きと説明されました。

当時、その地域では戦争が起こり、彼は人々を救うために一人のキリスト教徒とイスラム教徒を避難させました。学校に六千人のキリスト教徒をかくまい、肉をたくさん食べさせ、四千人のイスラム教徒には魚を食べさせました。戦争が終わったとき、助けもなかったお礼を言うため、彼のところに来た人は誰もいませんでした。一人を除いて…それはイスラム教徒でした。今日にいたるも、誰も思いついて彼に感謝しに来る人はいません。

このことをよくよく考えると、ロサレス枢機卿は文化や宗教の違いに関係なく、人はその人の心の中で、神の善良さを見て感じるができるときにだけ神に感謝でき、「この経験がなければ、人は神に感謝することはありませぬ。」と言われま

ミサが終わって、満席の大聖堂はだんだん空になり、皆は、ロサレス枢機卿D.D.（神学博士）と彼に同行してフィリピンから来日したMSPのエラディオ・オリバー神父やその他日本の各地から招かれたゲストを歓迎するランチと二時間のプログラムを催すため、大聖堂の前庭に集まりました。プログラムは午後一時半に開始されました。

プログラムは、広島フィリピン人協会のメンバーと、広島司教区の各地のカトリック教会のフィリピン人ボランティアが準備し主催した、とても生き生きとしたカラフルな文化的催し物でしたが、リカルド神父、荻神父、ヴァイタリ神父、Sr.ジヨイ、Sr.マリアニータたちが助け導いて辛抱強く働いた結果、すべてが大成功となりました。日当たりのよい日曜日の午後でしたが、昼食を取りながら、「ゆかた」を着た幟町教会のフィリピン人と日本人のグループによる日本の夏の踊りでプログラムが開始となりました。山口、岡山、島根、広島の数名のフィリピン人による民俗的な踊りや現代風の歌やクラシック音楽曲も、カラフルなフィリピンの衣装を身に付けて演奏されました。ベトナム人移住者共同体が拍手喝さいを受けたダンスもあり、お祝いの雰囲気は「最高潮」に達しました。



世界平和記念聖堂でのミサ、聖体拝領の様子
大勢の人々がともにミサを捧げた

それは徐々に、広島司教区のキリスト教共同体の喜びと一致の大きな祝賀会のようになっていました。誰もが、心温まる出し物を見物しながら、フィリピンの郷土料理とスナックを分け合って楽しくいただきました。独創的司会者のジョージ・エステラさんとチャット・セキさんの手腕で、全体のプログラムはスムーズに進行されました。

広島フィリピン人協会（HIPC）の会長であるリマトグ・ジエド氏は次の言葉で午後のイベントを締めくくりました。「ロサレス枢機卿、あなたが来てくださったという知らせを聞いただけで、私たちはたいへん興奮しました。昨日、あなた様は『フィリピン人が行くところはどこでも、神へ向かうキリストの信仰が共にある。』と私たちに言われました。今日は、私たちの心を温め、信仰を新たにしてください、ありがとうございます。私たちは現代のロレンソ・ルイス、三五〇年前に日本に来て『私が千個の命を持っていたら、その命を全部おささげします。』と言いながら勇敢にも神に命をささげた人物になりたいです。聖ロレンソ・ルイスのように、私たちはキリスト教の価値観を生きながら、ここ「昇る太陽」の地で、私たち移住者は生活上の多くの試練と困難に立ち向かいながら、キリストの生きる証人になることを望みます。ご臨席の皆様、フィリピン人の仲間の皆様、日本の西方のあらゆる所から来られたほかの国々の皆様にも、ご

参加いただきありがとうございます。皆様ののおかげで、本日の行事は「歴史的な調和」での成功となることができました。」

プログラムが終わると、フィリピン人の多くは、聖なるカリスマ性のある枢機卿を出迎え、写真を撮ったり、枢機卿と自撮りをしたりしました。たくさんの方が祝福もお願いしました。その中で、米子から来られた、病気のフィリピン人女性には、「彼が私の頭に手を置いたとき、顔がとても温かく感じました。平和に満たされた感じでした。」と述べていました。MARAMING SALAMAT CARDINAL ROSALES. HINDI NAMIN KAYO MALIMUTAN ! (ロサレス枢機卿、ありがとうございます。私たちはあなた様のことを決して忘れませぬ。)

教会スタンプラリー完了

認定証番号	氏名	(教会)
第0017号	大方ルミ	(幟町)
第0018号	山城敏子	(幟町)
第0019号	岡本英子	(幟町)
第0020号	倉嶋美恵	(岡山)
第0021号	佐々木真澄	(岡山)
第0022号	高塚信正	(岡山)
第0023号	高塚延子	(岡山)
第0024号	中内孝枝	(幟町)

シスター・マリアニータ・テニヨソ（イエズス孝女会）／リカルド・ブガス神父（フィリピン宣教会）

地区便り

山口島根地区

*平和を創る人々の集い

十一月五日から六日まで、岩国米軍基地周辺の現地見学と下関労働教育センターでの交流・親睦を行いました。バス定員数二十五名の参加が、お陰様で岡山・広島・山口地区などからありました。

岩国では、愛宕山から、岩国基地周辺、基地の見える高台そして空港へと巡りました。来年、空母艦載機が移駐されるための基地作りが進められている様子が手に取るように分かりました。また、労働教育セン



→愛宕山開発地区(岩国米軍施設建設予定地)で現地の視察を行なっている参加者

ターでは、夜の懇親会に続き、翌日、林尚志神父様の講話に与りました。「私たちのすぐ近くで叫んでいる被災者がいる。私たち一人一人がその声を聞き、その人々の中でのパン種となるように」とのメッセージを受け取りました。

広島地区

*平和アピール1981記念行事

『平和と環境』―教皇フランシスコ回勅「ラウダー・ト・シ」を受けて―
日時：二月十九日(日)
九時半～

場所：世界平和記念聖堂
ミサ・講話：白浜満司教
(ミサ中、三宅仁孝神学生と久保裕己神学生の助祭・司祭候補者認定式が行われます)
*広島キリシタン殉教祈念祭
日時：二月十一日(土・祝)
九時半～十二時位

場所：殉教碑(己斐清心学園入口)～観音町教会
ミサ・講話：白浜満司教
茶話会：十二時から

*高山右近列福式前の、右近の信仰、愛、希望を知る

日時：二月四日(土)

九時半～十五時半
場所：西日本霊性センター
講話：白浜満司教

(二月四日はアルペ神父列福祈願ミサも行われます)

伯雲ブロック

*永井隆博士追悼平和祈念ミサ

去る十一月二十三日、島根県雲南市三刀屋町の文化体育館アスパルにて、パウロ永井隆博士追悼平和祈念ミサが行われました。

長崎市浦上で被爆した後、医師として献身的に奉仕した博士は、如己堂にて数々の著作を通して平和を希求し訴えられました。

博士出身の雲南市は、二〇〇五年、「平和」都市宣言をしました。地元三刀屋如己の会と伯雲ブロック三教会は毎年、共催して平和祈念ミサをしています。

当日は雲南市副市長、市議会議長など行政・社会福祉関係者が参列し、教会では福山市、広島市など山陽方面からの参加者と鳥取市から出雲市までの約百二十人のカトリック信者が集い

海峡からの風43

下関労働教育センターだより

フードバンク

下関労働教育センターでは年に四回程の運営委員会が開かれ、毎回、各委員の活動報告が行われる。十一月三日の場で報告されたのはカンボジア研修生の労働問題、朝鮮学校との交流、障がい者の地域共生、ホームレス支援、慰安婦問題、冤罪事件、搾取経済、平和・戦争法反対、福島原発被害の子どもたちの保養、ケニアのスラム街の子どもたちの支援、日韓の教会の交流、社会教説・平和推進チームの活動など、それぞれが実に幅広く、深い問題に携わっていることが判る。これこそが下関労働教育センターの価値であり、力であると感じた。個人的には国際協力関連の活動と共に、フードバンクの活動にも参加している。食品ロスの削減と余った食品を食に困った人・施設に再分配することが軸となる活動である。センターが関わるホームレス支援や、炊出し用の弁当

作りと結びつけたいと思っ
て軽い気持ちで参加した。
ところが、国際協力で「ア
フリカの子どもたちに給食
を！」って活動しているの
に自分たちの食生活におい
て食べ物粗末にしている
ことの反省、また食品ロス
を生み出す要因が格差を生
み出す経済活動そのもので
あると思われるのに、その
免罪符的に利用されていな
いか？とか、善意で提供さ
れる食品は農薬まみれであ
るうが、化学物質まみれで
あるうが、遺伝子組み換え
であろうが、放射能汚染さ
であろうが、放射能汚染さ
れた食品であろうが、それ
が理由で拒む事が果たして
できるのであるうか？、貧
困・格差を生み出す社会的
構造という根っこにはな
かなか迫ることができず、
目の前の問題に振り回され
いるだけではないか？な
ど、これまた問題は広く、
深く、悩みは尽きない。
各地にフードバンク活
動や子ども食堂などがある
と思います。共に悩んでみ
ませんか？

大城研司



講演を行なった、肥塚神父

ました。
ミサは白浜満司教様と五人の司祭団との共同司式で盛大に行われました。説教の中で司教様は「摂理」について永井博士の生涯と合わせて言及されました。
ミサ後の講演では肥塚神父様が「信仰・愛・平和」の観点から博士の生涯を考察され、続いて、浦上キリシタン資料館の岩波智代子氏から、この日、十一月二十三日は浦上教会の被爆後、初めて共同葬儀ミサが行われ、永井博士が信徒代表挨拶の中で「燔祭」に言及された日であるとの紹介がありました。
図らずも今年にはミサ中、拝領祈願の後で永井博士の作詞「燔祭の歌」を無伴奏混声四部合唱で発表したことと合わせて、神の摂理を思い、深い祈りと静かな喜びを感じる一日となりました。

岡山鳥取地区

*J-CARM 岡山鳥取 (7111 ティ)

十一月五日(土)岡山教会で今年度の研修会をしました。二月に岡山で開催された、J-CARM 大阪管区セミナーの一部をもっと勉強しようと思い、前回の講師、小松公寛さんのもと「外国人技能実習生制度」とその現状を知る・・・私たちにできることは何か?・・・を行いました。

この制度についての良い点・悪い点、また就業先の職種による実態の格差など、私たちには知らないことがいっぱいでした。私たち活動グループだけではなく内外からも多くの方々に参加しました。

*ヨセフ館完成 玉島教会

「皆で作る信徒館」を目指して始まった工事がついに完了。十一月二十日にお披露目しました。信徒館本館の解体・ルルドの制作・ウッドデッキ作りは、信徒で行いました。古いものを解体し、柱や床板など分別



玉島教会 ヨセフ館 (信徒会館)

を行い可能な限り再利用しました。ルルド制作では、古いルルドの石を再利用して石畳を作りました。大きな石をチェーンブロックで積み上げる作業が真夏の暑い日に続きました。広いウッドデッキ作りも困難の連続でした。

一緒に汗を流して働き、時間があれば様子を見に来てくださる神父様方に大きな力と勇気と支えを頂きました。神父様方を通して神様はいつも私たちを見守りどんな事も支えてくださると実感できる日々でした。

—お知らせ—
イエズス孝女会
松江修道院 閉鎖
2017年3月31日をも
ちまして修道院を
閉鎖することになり
ました。

広島教区の施設 32
萩光塩学院中・高等学校
校長補佐 生利 工次

「今こそ、カトリック教育を」

萩光塩学院は、スペインを祥地とするベリス・メルセス宣教師修道女会が設立母体となつて、一九五二年四月に中学校・高等学校を併設して開校されました。校名は、聖書の「あなたは世の光である」から付けられています。▼日本海に面した人口約五万人の小さな城下町萩と言え、明治維新胎動の地として有名です。その原動力となった人物「吉田松陰」は今なお、萩の精神教育の手本になっていると言つても過言ではないと思います。そんな萩の地に、今から六十五年前、カトリック精神に基づく教育の種が蒔かれ、その種が大きく成長し、豊かな実を結びつつある今日、これこそ「神のわざ」だと言わざるを得ません。▼奉職して四十年近くになります。この間、初等部(二〇〇八年に休校)、中等部・高等部の多くの生徒と関わりながら、カトリック学校の使命について考えてきました。言うまでもなく、カトリック学校の魂はキリストであり、学校教育に関わるすべての人々の内にキリスト教的人間観、世



全校生徒によるミサの様子

界観が生かされる学校でなければなりません。しかしながら、萩光塩学院のみならず、多くのカトリック学校において、指導的役割を担う神父・修道女・信徒の数が激減しているのが現状です。さらに少子化により生徒数が減り、多くのカトリック学校が経営の危機にさらされています。▼日本社会だけでなく世界中がどこかおかしくなっている根本的な理由は、その根底を支えている価値観・世界観にあると思います。経済優先の価値観、能率を優先する価値観では、真の人間教育はできません。今こそ、キリスト教的人間観に基づく教育が必要です。▼広島教区内には、幼稚園から大学までいくつかのカトリック学校があります。信徒の皆様がカトリック学校の存在意義について再認識してくださることを心より願っています。



ある人が降誕について言うていたことを聞いたことがある。
「今が苦しくて、つらくて、全能の神様に嘆いたら、全く無力な赤ちゃんのイエス様来るって。こんな赤ちゃんに何ができますか！」
確かに普通に考えたら、間違いないことだ。なぜ、



「万民の光」

岡山・岡山南教会助任
パウロ 尹兌榮 神父

2016年大阪教会管区特別企画
司教と青年達は出会い、
そしてWaiWai語る3

「いつくしみ ういれ ゆるし」
10月29～30日
小林聖心口ザリオヒル(宝塚市)



自分にとつて
久々の教会関係
のイベントで、
とてもわくわく
していた。それ
は初めて兵庫に
行って、また教
区以外の人も
関わることで
きるからだ。

最初のオリエンテーショ
ンでは、とても緊張して何
をしたのか思い出せない。
そのまま各グループに分か
れて分かれ合いに入った、
そのころには何とか緊張も
解けて自分の意見をしっか
り言えた。
その後、夕ご飯ではお母
さん方の手作りカレーを頂

いた。ここからプログラム
2に入り、いろいろな司教
様のお話を聞くことができ
た。印象に残った話は、
「人は眼鏡をかけている、
知識が増えるとレンズが分
厚くなる。」ということ
だ。これは、人は知識をも
つようになる何でも決め
付けてしまい、大事なもの

が見えなくなってしまうと
いう話である。その後は交
流する時間で、あつという
間に一日が終わってしまった。
二日目はとても時間の流
れが早くびつくりした。最
後の昼ご飯は、みんな外
で食べた。
初めて教区以外の人と関
わることができ、もつと人
と話し共に過ごしたいと思
ったので、また機会があつ
たらぜひ参加したいと思
う。(祇園教会 小田陽)

イエス様は何もできない赤
ちゃんの姿としてこの世に
来られたのか。そしてごく一
部の人たちにしかその誕生は
知られなかった。なぜイエ
ス様はもつと偉い人として、
もつと格好良く来られなかつ
たのか。
これら疑問の答えをす
でに多くの方が知っている。
「もつとも小さな姿で来られ
たことで、もつとも小さな人
たちの友になられた。」この
ことと次の聖書箇所を合わせ
て考えてみたい。
「はつきり言うておく。

この箇所は多くの人が聞いた
ことあるだろう。しかし、
実際に貧しいホームレスが毎
日司祭館に来て、当たり前
のようにご飯を要求した時、ご
飯のおかずについて何か文句
を言われた時に、わたしは心
地よく彼に食事を与えること
ができなかった。わたしの中
では、彼の中にイエス様はい
なかった。きつといらつしや
なかつた。きつといらつしや
ると頭の中では知っていて
も、やつぱり現実の話になる
となかなか難しい。
教会の馬小屋の上にある
星、光。見るだけで何か癒さ
れる。しかし、現実の中で暗
くて、貧しい中に輝くはずの

光をわたしはその暗さ、貧し
さの故に見ようとしない。
二千年前のユダヤ人のよう
に。今を生きている常識的な
多くの人たちと同様に。神で
あるイエス様は人間になると
いうことで、すべてを自ら捨
てたとも言える。わたしには
到底真似できない。しかし、
今年は真似をするつもりでし
て、その光が見たい。
「飢えている人に心を配り
苦しめられている人の願いを
満たすならあなたの光は、
闇の中に輝き出であなたを
包む闇は、真昼のようにな
る。」(イザヤ五十八・十)
「闇の中を歩む民は、大い
なる光を見た。」(死の陰の地
に住む者の上に、光が輝い
た。ひとりの男の子がわたし
たちに与えられた。」(イザ
ヤ九・一、五)

第51回中国ブロック
カトリック高校生大会

のご案内

3月23日(木)～26日(日)

場所：山口カトリック教会

詳細は、各小教区へ配布される
案内をご覧ください。



新しい年を迎え、白浜司
教様のもと、「教会への
チャレンジ」を心に日々を
過ごしたい。(よ)